

単元名	浮く・泳ぐ運動	配当時間	10時間
単元の目標	(1) 順番やきまりを守って仲よく運動したり，浮く・泳ぐ運動の心得を守ったりしようとする。 (2) 競争や運動の仕方の課題をもち，運動の楽しさを求めて活動を工夫することができる。 (3) 水にもぐったり浮いたり，補助具を使って泳いだりすることができる。		
単元を構想する上での留意点	浮く・泳ぐ運動には，「水に入ることそのものの楽しさ」がある。そのため本単元では，単元を通して水に親しむ時間を設ける。また，個々の能力に差が現れてくる時期なのでグループ学習ができるようにし，4年生からの水泳領域の学習での基礎・基本を身に付けさせる。水難事故防止のため，着衣泳についても，夏休み前に実施する。		
単元展開例			
準備	学習カード，ビート板，水球用ボール，基石，ヘルパー，ペットボトル など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1 浮く・泳ぐ運動のねらいと内容を理解し，学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 水にもぐったり浮いたり，泳いだりして楽しもう ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○水遊びに関連した体ほぐしの運動をする。 ○グループを編成する。		・水にもぐったり浮いたり，泳いだりすることを知らせる。 ・カードの記入は教室で行わせる。 ・プールのきまりや，浮く・泳ぐ運動の心得をしっかり押さえる。 ・1グループ4～10人，男女混合で編成する。	
2～4 今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で，ゲームや遊びをして楽しむ。（ねらい1） ○体ほぐしの運動をする。 ○グループでいろいろな遊びやゲームをする。 ・水中まりつき ・いかだ流し ・ラッコ浮き ・水中トンネルくぐり ・ロングビート板リレー ・鯉の滝のぼり ・水中ポートボール など ○反省し，まとめをする。 ・楽しかったこと ・できたこと ・心得 など		・毎時間必ず行うようにする。	
5～7 できそうな浮き方や進み方・泳ぎ方に挑戦して楽しむ。（ねらい2） ○めあて別にグループを編成する。 ○体ほぐしの運動をする。 ○今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で楽しむ。 ・伏し浮き ・け伸び ・ばた足 ・かえる足 ・補助具を使って浮く ・リレー遊び など ○できそうな浮き方や進み方・泳ぎ方に挑戦して楽しむ。 ・ばた足 ・かえる足 ・面かぶりクロール ・呼吸をのクロール（補助具使用） など ○反省し，まとめをする。 ・めあて ・できたこと ・心得 など		評協力し合って練習する活動を通して，「関心・意欲・態度」を評価する。	
8 着衣泳をする。		・同じようなめあてをもつ児童でバディを組ませ，確認させる。 ・挑戦してみたいことも行わせてもよい。 ・個別に指導にあたる。 ・めあてが合っていない児童には助言する。	
		評自分に合っためあてをもって練習する活動を通して，「思考・判断」を評価する。	

○服を着たままで水中を歩く。 ○浮く。 ○ゆっくり泳ぐ。 ○ペットボトルを使って浮く。 ・ペットボトルを置く位置 胸 腹 腰 首前 首後 など 9,10 記録会，水中ゲーム大会をする。 ○泳力を測る。 ○水中ゲーム大会をする。 ・ビート板リレー ・碁石拾い ・ボール送り ・水中ポートボール など ○単元のまとめをする。	・長袖・長ズボンが望ましい。（よく洗った清潔なもの） ・服を着たまま泳ぐことの大変さを知り，水に落ちたときには，泳がずに浮いて助けを待つことを理解させる。 ・２リットルの空ペットボトルを用意させる。 ・どこに置くと浮きやすいか体感させるとともに，ペットボトルが救命具になることを理解させる。（首から胸のあたりに置いて背浮きをするのが最も浮きやすい） ・学校，学級の実態に応じて行う。 ・できるようになったことや自分たちの考えた遊びやゲームで楽しむ。 - 評記録会・水中ゲーム大会を通して，「技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
--	--